

## 「古江台ホール」での年末餅つきボランティア



年の瀬も押し迫った12月26日、特別養護老人ホーム古江台ホールへ恒例の餅つきのお手伝いに行かせて頂きました。男性5人女性13人の総勢18人の参加です。毎年入居の方も楽しみにしておられ、私たちもまた懐かしい郷愁の思いと共に参加させて頂いています。特養やデイサービスなど4カ所を台車に臼や杵などを乗せて回るのですが、どのフロアも餅つきに参加しませんかと声をかけると、何人かの方が出てこられ掛け声と共に杵をついて下さいます。また粉をつけたりお餅を丸めたりのお手伝いも進んで参加して下さいます。

います。

遠い昔の日本の原風景は何でも手作りで大家族が支えあう生活でした。お餅も何か行事があるたびに作られたものです。今、核家族が主体となり、餅つきを見る場所もすることもあまりなくなりました。それでもこの施設では餅つきが実施されて、懐かしい日々思いを馳せる方々がいて笑い声が響いている現状を見るにつけ、この楽しい行事が続くようにと願っています。

最後に頂いたお餅は本当に美味しかったです。ご馳走さまでした。(吉田光代)

## 高齢者の元気な町に出会った

昨秋、台湾に旅行したときの収穫は高齢者が元気に生きている町に出会ったことでした。日本語では「カラフルなアート村」というタイトルで『地球の歩き方』にも小さな記事が載っていました。

見つけたのは台中市の西の郊外。右の写真のようにふつうの民家の壁や通路が、紅色を基調に漫画風の顔や人物で隙間なしにいっぱい描き込まれています。絵を描いた主は現在92歳、数年前から描き始め近所の若者たちの手伝いもあったでしょう。家の中から外壁、通路まで隙間なく絵具で塗りつぶし、さらに余ったエネルギーで、家の前の児童公園にもいっぱい作品群です。

絵具代や公園の開放など村の協力もあり、今では旅行者が自由に立ち寄る空間になり、家の中には小さな土産物店もできて、若い人が絵葉書やジュースを売っていました。

もちろんプロの絵描きでも何でもない普通の町の老人だそうですが、これほどにあちこちに絵具を塗りこめたエネルギーにただただ感心。そんな高齢者の育つ社会に出会ったことで私もエネルギーをもらったような、不思議な気持ちになりました。(奥野享)



### 新入会員のご紹介 (1月)

\*東 美喜子さん

豊中市